

街を行く

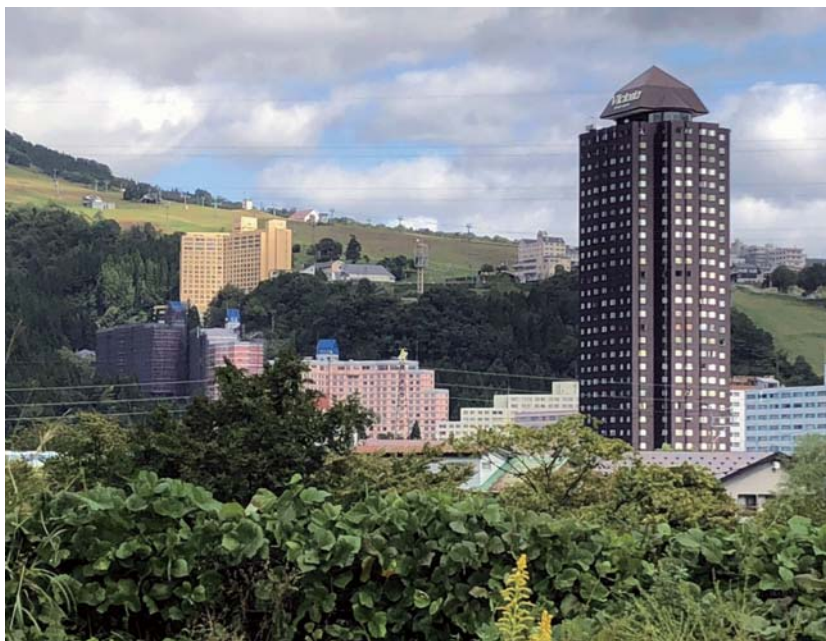
第108回 湯沢町 Yuzawamachi

トンネルを抜けると“新しい”雪国だった

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった…」、皆さんはこの有名なフレーズをご存知ですか。昭和の文豪でノーベル賞作家である川端康成の名作、「雪国」の書き出しの一節であります。主人公の島村は東京での浮世を忘れるためにこの地を訪れ、芸者の駒子との逢瀬を楽しむのです。

物語の中では湯沢での暮らしが活き活きと描写されています。この雪深い街はバブル時代に入ると人気のスキー場へと変貌し、「越後湯沢」という名はリゾートマンションの代名詞にもなりました。富裕層はこぞってタワーマンションを購入し、社会現象にもなったものです。しかしその後は、スキー人口が減少するとともにリゾートマンションブームも下火となり、保有自体が危ぶまれ売りに売れないお荷物資産とさえ言われたものです。中には資産価値が無く、管理費の支払いにすら事欠く事態も出てきました。しかし、スノーボードの普及と観光立国日本の推進のなか、大勢の外国人観光客が良質な雪を求めて押し寄せてきました。そのお陰で新しいリゾートマンション需要が生まれ、多くの所有権が国内富裕層から外国人富裕層へと移っています。完全なるインバウンド現象ですね。

今回、小生が訪れたのは10月の初旬で紅葉でもなく雪景色でもありませんから、観光客に至っては外国人にかかわらず日本人にさえも会うことはありません。シーズンオフのリゾート地もオツなものだと言いつつも散策をしていましたら湖のほとりにあるキャンプ場に行くわし、係員さんからこの辺りを散策す



新しい雪国に現代の情緒を探して越後湯沢の街を歩く

るなら熊に気を付ける様にと注意を受けました。まさかここでは思ったものの、昨今のニュースを思い出し慌てて熊除けの鈴を買った次第です。ちょうど冬眠前の時期ですから、食糧確保のために熊も獐猛になっている頃ですので用心です。熊に限らず最近では猿やイノシシ、鹿までもが山から下りて、街へとやってきます。ただ単に再開発が進み彼らの食糧確保が困難になってきたのか、それとも生態系の変化とともに生活様式が変わってきたのか。彼らにとっても住みにくい世の中になっているのでしょうか。情緒もそうですが、「雪国」の話に出てくる様ざまなものは、この地方でさえ感じるのはむずかしくなっています。情緒も時代とともに移り変わるのですから、現代の情緒を探して楽しむしかありません。いや情緒などという言葉は死語になってしまってい

るのでしょうか。われわれは雪国の楽しい生活だけを見て、雪と戦う本当の大変さは考えてはいません。その大変さを経験するからこそ情緒も感じるのでしょうか。どこへ行っても良いことだけを求めては、本当の素晴らしさは感じられませんよね。大変な事から楽しさに変わることを肌で感じて、初めて本当の情緒を味わえるのかもしれない。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。